

## 井上巽名誉教授記念号の発刊にあたって

学長 山田家正

このたび、商学討究第51巻2・3合併号を発刊するにあたり、長年本学の発展に尽くされた小樽商科大学名誉教授井上巽先生のご業績を讃え、本号を「井上巽名誉教授記念号」とすることに致しました。

先生は1960年東北大学文学部西洋史学科をご卒業後、同大学院文学研究科修士課程、博士課程を経て、1965年に北海学園大学経済学部講師として教育研究の道に進まれ、1967年に本学商学部講師（経済学科、経済史担当）としてご着任後、1968年助教授、1979年教授に昇任され、1985年からは大学院商学研究科の担当も併任されました。1990年7月からの2年間は学生部長として、さらに1995年4月から1996年11月まで附属図書館長として重責を担われ本学の発展に多大の功績を残されました。1997年3月をもって惜しまれつつ本学を退職され、二松学舎大学国際政治学部教授として転出されました。本学教授会は同年4月に直ちに本学名誉教授の称号を授与致しました。

先生のご専門は西洋経済史、特に近代イギリス経済史で、著書として「イギリス資本主義の確立、共著（1968）」、「イギリス資本主義と帝国主義世界、共編著（1990）」、「金融と帝国－イギリス帝国経済史（1995）」をはじめ多数の学術論文を発表して学会に寄与されました。近著の「金融と帝国－イギリス帝国経済史」は長年の研究成果の集大成とのお話を伺ったことがあります。この本の「はしがき」には小樽商大の附属図書館に集積された鬼頭文庫をはじめ金融関係の膨大な資料は“宝の山である”との一文がありますが、その宝の山を涉

獵されて研究成果を挙げて頂いたことは本学関係者にとっても非常に励みになりました。学生の教育にも熱意をもってあたられ、先生の聲咳に接した学生の多くがその暖かいお人柄と真摯な研究者としての厳しさに魅了されたと聞いております。

また、先生の学生部長あるいは附属図書館長の時代は本学にとって多事多難な時期でもあり、1992年に学長に就任したばかりの私にとって、よき相談相手になって頂いたことは終生忘れることができないことでもあります。昨年、文部省で偶然にお目にかかった時に、転出先の大学で学部長として大学改革の牽引役を務めておられる由伺いました。

先生の今後益々の御発展を祈り上げて本記念号の発刊にあたってのご挨拶と致します。